

「今を生きる」 (校長便り R2 NO.9)

校長挨拶 (3学期始業式)

生徒の皆さん、明けましておめでとうございます。この冬休みは充実した休みとなりましたか？言うまでもなく、去年はコロナに翻弄された一年でした。年が明けてもまだ見通しが立たない状況が続いていますが、このような時だからこそ、年頭に一人ひとりが明確な目標を立てましょう。

今年は何年ですか。『牛も千里、馬も千里』ということわざがあります。馬に比べて牛の歩みは遅いですが、地道に努力を重ねれば同じゴールにたどり着くという意味です。何年は、先を急がず目の前のことを着実に進めることで将来の成功につながっていく年といわれています。決して焦らず、不安がらず、それぞれの目標に向かって、一歩ずつ頑張っていきましょう。

それでは、年頭に当たり、私から一つ話をします。それは「思いやり」についてです。私たちは社会生活を営んでいる以上、人と人との繋がりの中でしか生きていくことはできません。そこで大切なのは、他者に対して、どれだけ思いやることができるかです。しかも、この「思いやり」には段階があります。まず、皆さんに心がけてほしいのは、当たり前のことかも知れませんが、自分が相手の立場だったらどう感じるかを考えることです。そうすれば、相手に対して自分がされて嫌なことはしなくなるし、また自分がしてほしいと思うことを相手に対してできるようになります。それができるようになれば、いじめなどはすぐに無くなると思います。しかし、それだけで真の思いやりと言えるのでしょうか？というのは、自分に置き換えて考えるだけでいいのかということです。自分の考えや感じ方、価値観が必ずしも正しいとは限りません。自分がよかれと思ってやったことが仇になってしまうこともあります。目の前にいる相手は、自分とは違った背景を必ず持っています。そんな相手に自分の考えや価値観をそのまま押しつけるのは、真の思いやりではありません。ではどうすればいいのか。次の段階として、自分に置き換えて考えるだけでなく、相手の立場に立って考える努力をすることです。そのためには、相手の背景にまで想いを巡らせる必要があります。そうすることで、初めて相手を理解し、そして受け入れることができます。その先に、真の思いやりがあります。その積み重ねが、皆さんに広く寛容な心を育てます。そうすれば、やがて差別なども無くなるでしょう。

2学期終業式では、自分自身を理解し、信じることの大切さについてお話ししました。実は、このことと今日の話は無縁ではありません。なぜなら、自分を信じ、大切にできる人は目の前の相手も大切にできるからです。「思いやり」の出発点は、まず自分を理解することから始まります。

コロナ禍で、医療従事者の方々が感染のリスクにさらされながら、昼夜問わず最前線で奮闘されています。また、医療従事者に限らず、エッセンシャルワーカーと呼ばれる方々が私たちの日常生活を守るために日々頑張っておられます。そのようなニュースを見聞きすると、頭では理解し、「大変だな。」「頑張ってる。」と思います。しかし、正直なところ、自分事として深刻に捉えられていないようにも感じます。それは、思いやる対象が目の前の相手よりさらに遠い存在だからでしょう。そのような意識が、近頃の“コロナ慣れ”や感染再拡大といった状況を生み出しているのではないのでしょうか。そこで、せめて、世の中で頑張っておられる方々が自分の身内だったらと考えてみましょう。深刻さは違ってくると思います。そして、一人ひとりが今できることをやりましょう。

コロナによって人と人との物理的な接触や繋がりが絶たれようとしている今、人を思いやる心や理解しようとする想像力がこれまで以上に必要とされています。思いやりの連鎖が連なれば、きっと、様々な困難に打ち勝てると思います。さあ、いよいよ3学期の始まりです。令和2年度の締めくくりにもふさわしい充実した毎日を送りましょう。特に3年生の皆さんにとっては、残り少ないかけがえのない高校生活の日々です。悔いの無いように一日一日を過ごしてください。

令和3年1月8日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善